

人口学の本場に飛び込む1週間

2025年2月23日～3月5日
プリンストン・ボストン

医学部健康総合科学科 公共健康科学専修4年 初田将吾

企画のプロセス

- ・学科の友人が本制度を利用してオランダ・ベルギー・カンボジア・フランスなど様々な国に行って勉強していて羨ましかったため、まずは先生に相談した。
- ・各国では出生・死亡・移動といった人口学的要素も、抱えている人口に関する問題やトピックが全く異なるだろうと考え、外国で研究を行う研究者や学生に会ってインタビューしてみたいと考えた。
- ・専攻を決めたものの人口学を学ぶ学生と交流する機会がほとんどなく、大学附属の人口研究所というものとその活動に興味があった。
また、海外での学生生活の実際についても関心があったため、見学してみたかった。
- ・未だ影響力を持つ著名な人口学者が多く在籍したプリンストン大学人口研究所を訪問してみたいと考えた。
- ・また、当研究所を出た先生の研究課題である、結婚による階層結合や女性の高学歴化に伴う結婚行動の変容に関心があったため、訪問を打診した。

訪問先の紹介（抜粋）

・Princeton University Office of Population Research(プリンストン人口研究所)
大学附属の人口研究所で、これまで多くの高名な人口学者が在籍した。世界中から留学生を集め、人口研究の拠点となっている。

・J. Raymo先生
プリンストン人口研の暫定所長で、長く東アジア地域の家族の在り方についての研究をなさっている社会人口学者。交際から結婚・出産・離婚・老後まで幅広く対象にされており、主に社会学の視点からそれらの背景にある規範や構造を分析・考察している。

・F. Uchikoshi先生
ハーバード大ウェザーヘッド国際問題センターに奨学生として所属される同じく社会人口学者で、主に日本を対象にして学歴等の階層結合に関する研究をなさっている。

・M. Cote-Gendreauさん
プリンストン人口研に所属するPhD学生で、カナダからの留学生。自分の卒業論文研究のテーマでもある歴史人口分野を専門とし、近代におけるカナダへの移民やカナダにおける自然出生力集団に関する研究を行っている。

OPR
OFFICE OF POPULATION RESEARCH

スケジュール

- 2月23日 成田空港発/ニューアーク空港着/プリンストン着
- 2月24日～3月1日 プリンストン大学人口研究所（抜粋）
- 2月25日 人口学ワーキンググループに参加
- 26日 Raymo教授と面談
- 28日 歴史人口を研究するPhD生と面談
- 3月2日 プリンストン発/ボストン着
- 3月3日 ハーバード大でUchikoshi先生と面会
- 3月4日 ボストン空港発
- 3月5日 羽田空港着



学食のハンバーガー
でかい！高い！けど美味しい！



アメリカのサンドウィッチは何でこんなに入れるんだらうってくらいパストラミが入っていた

感想・反省

まずは英語が通じて安心した。一人初海外で不安だったが事前に泉先生と計画を立てていたことで問題なく充実した研修になった。また研修目的には適わないものの、そもそも外国に行くことで学びになったことが多くあった。

プリンストンでの1週間では先生方のご厚意で大学院生室に机をお貸しいただき、多くの大学院生と交流が出来た。彼らのほとんどは留学生で、(国柄だろうか?)移民関連の研究を実施する学生が多かった。互いの研究や関心の話ができ非常に好奇心が刺激されたうえ、人口という学問分野の裾野の広さを実感した。
一方で研修全体を通して、国外でどのような研究がなされていて、どのようなトピックが盛んなのかなどについて、勉強不足を痛感した。

海外研修のススメ：後輩へのメッセージ

何か学びたいテーマがあって行ってみたい場所・話してみたい人がいるなら、積極的に相談してみましょう！

自分も最初は海外行ってみたい～という邪な気持ちからでしたが、何に興味があるのか→何を知りたいのか→誰と話してみたいのか、と絞るうちに沢山の学びがありました。
研究を続ける人には特にですが、確実に自分の興味関心を豊かにしてくれます！